

認知症未来社会創造センターにおける ゲノム研究の役割

総合司会 東京都健康長寿医療センター 齊藤 祐子

14:05～14:35

演題1 『バイオバンク・ブレインバンクの協力による、 脳機能の解明を通じての認知症克服への道』

演者 東京大学 医科学研究所 バイオバンクジャパン 松田 浩一

14:35～14:50

報告 『高齢者ブレインバンク年次報告』

東京都健康長寿医療センター 高齢者ブレインバンク 齊藤 祐子

15:00～15:30

演題2 『遺伝子治療が開く高齢者医療の未来』

演者 東京大学大学院 医学系研究科神経内科 松川 敬志

15:30～15:50

総合討論 『ゲノムでの老化克服は可能か？』

日時：令和6年11月5日（火）

午後2時～午後4時（開場：午後1時30分）

会場：板橋区立文化会館大ホール（定員 1,263名）手話通訳付き

主催：東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク
認知症未来社会創造センター(IRIDE)

共催：バイオバンクジャパン



地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター

BioBank Japan
バイオバンク・ジャパン

認知症未来社会創造センターにおける ゲノム研究の役割

司会 東京都健康長寿医療センター老年病理学研究チーム神経病理学 研究部長 齊藤祐子

高齢者ブレインバンクは、患者と介護者に最初から最後まで寄り添い、生活の質を高める努力をし、不幸にして亡くなられた時には剖検による確定診断を行うことで最後の貢献をし、全過程を通じた臨床情報、放射線画像、血液（髄液）バイオマーカー、死後脳・全身組織（部分）リソースを元に、老化・認知症の克服を目指すことを理念としています。

今回、高齢者ブレインバンク登録者中、生前バイオバンクジャパンに登録しておられた方が 100 名弱いらっしゃるということが分かりました。血液由来のゲノムと脳のゲノムを調べることで、脳老化・脳疾患発症機構の解明が可能となります。

このシンポジウムはバイオバンクジャパンとブレインバンクの協力で新しい光が得られることの周知が目的です。医学研究の進歩への感動を、私達と共有いただければ幸いです。



演題1 『バイオバンク・ブレインバンクの協力による、脳機能の解明を通じた認知症克服への道』

東京大学 医科学研究所 バイオバンクジャパン 松田 浩一

バイオバンクジャパンでは、研究にご協力頂いた皆様の血液や病気の情報を使わせて頂き、認知症をはじめとする様々な病気の研究をすすめています。今回ブレインバンクとバイオバンクジャパン両方にご協力頂いた方を対象とした画期的な研究をスタートしました。この研究によって病気のリスク予測や予防、治療薬の開発につながると期待されます。今回我々の研究成果などについてご紹介します。



演題2 『遺伝子治療が開く高齢者医療の未来』

東京大学大学院 医学系研究科神経内科 松川 敬志

様々な遺伝子疾患の原因遺伝子が同定されることに伴い、特定の遺伝性疾患や、また、がん治療にも遺伝子治療が利用されています。特定の細胞に対して遺伝子を導入することで効果を発揮します。また、細胞の老化のメカニズムが徐々に解明されつつあり、将来的に、細胞の老化に関係する遺伝子の働きを修飾することで、老化の進行を遅らせる治療につながることが期待されます。

